

点を分析し、研究計画を立てた。

予備テストを六月に実施した結果10までのものを一対一に対応して数えることや、5以内の数の違いや、10までの数の大小比較や、10までの数の合成分解や、20までの数の順序や構成などの基礎事項が十分に定着していないために、数の概念が身につけていないことがわかった。

そこで、前提条件であるこれらの基礎事項を90%以上理解させるために、四時間かけて追指導をした。

その後、前提テストを行ったところ、90%以上の理解率を示したので、たし算、ひき算の指導を行った。

(二) 検証・考察

1) 検証授業
授業を行うに当たって、導入で必ず本時と関連のある基礎事項を復習

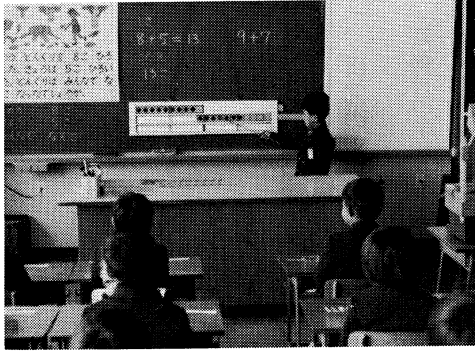


写真1 数図計算尺を使って計算方法の説明



写真2 同じ答えのカード拾い

させ、これを展開のところで生かすようにしていった。

また、次時の学習については、必ず本時で、次時に学習したいことを話し合わせ、その話し合いの中から、本時と関連づくものを取り上げるようにさせ、むりにならない程度に、できるだけ予習させた。話し合いの中で、学習したことが本時と関連のないものだけをあげた場合は、教師が指示をするようにした。

授業の流れは、五段階指導の変形として、復習→目あて及び問題把握→計画・予想→作業・検証及び考察→発展・練習→まとめ→課題意識という七段階の指導形式を原則としてきた。

次の指導案は、二十時間分の指導案の中の一例であり、その一部分で

ある。

◆ 第一学年算数科学習指導案

- 1 単元名 たし算(2)
- 2 本時の目標

(1) 総括目標

一位数に一位数をたして、繰り上がりのある加法計算(被加数が加数より大きい場合)の方法を理解させる。

(2) 行動目標

- ① 被加数8の10に対する補数2を見つけたことができる
 - ② 加数5を被加数8の10に対する補数2とほかの数3とに分解できる
 - ③ 補数2を被加数8にたして「10といくつ」と、とらえることができる
 - ④ $6+1$ の計算を具体物を使って計算できる
 - 3 前提条件 (略)
 - 4 機器利用のねらい(OHP)
 - (1) 予想の段階で、簡単なベン図により考えさせる。また、「10といくつ」か、数図を操作することによりとらえさせる。
 - (2) まとめの段階で繰り上がりを一般的にまとめる
- 5 指導過程
次ページ

表1 8 + 5 の計算

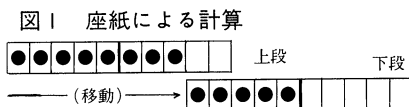
段階	意 図	教 材 ・ 教 具	反 省
目 あ て は 推	<ul style="list-style-type: none"> ○目あてをしっかりとつかませ、みんなの問題としての意識を持たせるために利用する 	別紙 	(略)
予 想	<ul style="list-style-type: none"> ○簡単なベン図を用いて、計算方法を考えさせる 	TP ₁ 	(略)

(2) 検証授業に使用した視聴覚教材教具及び教育機器

○座 紙

図1のような紙(座紙)におはじきを載せて移動させ、計算のしかたを考えさせた。

例えば、加法の計算で $8+5$ は、表1のようにさせた。



6 教材教具と反省